

# くらしナビ ライフスタイル

退職後の第二の人生 田



## 次世代に役立つために

### ●自治体ランク付け

50歳を前に猛烈商社マンとしての生き方に終止符を打ち、大阪府立大手前高校(大阪府中央区)の同級生たちとともに、NPO法人「エガリテ大手前」を設立した古久保俊嗣さん(65)＝東京都杉並区。法人の活動目標に「男女共同参画」次世代育成支援」を掲げたのはいいが、当初は「何をどうすればいいのか、さっぱり分からなかった」と、笑いながら振り返る。

けして読んでみよう。こんな酔狂なことをしている団体は、うちくらいのもんだろうし」  
当時の市町村数は全国で約3000。すべてに目を通した結果、「全く同じ文書が山ほどあった。一字一句誰かが作ったひな型通り」。その一方で、思いを込め、独自の内容であることをにじませる計画を作った自治体もあった。こうした「頑張っている自治体」を発信することで、次世代育成支援の機運を盛り上げたいとの思いから、待機児童対策や小児救急医療体制などを独自の計算式で点数化し、自治体を順位付けする作業に着手した。

6年2月、政令市・中核市・東京23区を対象に、初めて実施したランキング調査の結果公表は、以降も毎年続き、近年は自治体から「子育てしやすい街にするにはどうすればいいか」と、相談がくるほどになった。

### ●祖父の孫育て講座

「ソムリエとパティシエを

直前の2003年に成立した次世代育成支援対策推進法だった。同法は、地方自治体と従業員が一定規模以上の企業に、仕事と子育てが両立できる環境づくりに向けた行動計画を策定し、厚生労働省に提出するよう義務付けるもの。多くの自治体はホームページ(HP)で計画の内容や達成状況を公表していた。「まずは全自治体の行動計画を手分



北九州市で開催された「ソフリエ・パバシエ認定講座」で、乳児の着替えを学ぶ参加者たち＝エガリテ大手前提供

もじて」命名した「ソフリエ・パバシエ認定講座」も、エガリテの名物事業の一つだ。父親、祖父の子・孫育てスキルを伸ばそうと企画したこの事業のきっかけは、初めてランキング調査を公表したころに抱いた「課題の解決を自治体任せにするだけではないのか」という疑問。乳児の抱き方、もく浴、離乳食作り、遊び方……。NPOのメンバーが先生役を務める講座は、10年に北九州市で初めて開いたのを皮切りに、今では開催自治体が約50に増えた。

「団塊の世代以降は、民主主義、男女平等の価値観の中で育ってきた。それが根っこにあるからこそ、企業戦士として家庭を顧みずに生きてき

た祖父たちも、心の底では「我が子に触れる時間が持てなかった」という悔いがあるんじゃないでしょうか。古久保さんは同世代の参加者たちの思いをそう代弁し、「私自身もそうだったので」と、小さく笑った。

### ●性別に関係なく

商社勤務時代の同僚だった古久保さんの妻は、結婚を機に退職した専業主婦だ。一方、一人娘は大学卒業後、外資系企業に就職。6歳と3歳の息子2人を夫婦で育てながら共働きを続けている。社会の変化を感じつつも、「娘夫婦は最初から兄弟を同じ保育所に入れたかったんだけど、下の孫が0歳児の時は上の子と別の保育所しか入れなかったんです。待機児童問題ですよ」と、今の時代ならではの課題も実感している古久保さん。後に続く世代が、性別に関係なく、能力や意欲次第で道が開ける社会を生きられるようにとの願いは、60代も後半に差しかかった今、強まる一方だという。

「僕らは世界有数の経済大国として日本が輝いていたころを生きてきた。上位でもらったそのたすきを、うんと順位を下げて後輩たちに渡すことになる。それが申し訳ないからこそ、せめて今までの人生観、価値観を変え、若い人たちが子育て環境などで困っているなら、それを改善する手伝いをしたい」。15年に成立した女性活躍推進法を基に、今度は企業を対象にした「女性活躍度ランキング調査」を仲間たちと始めたのも、そうした思いゆえだ。

「もっともっと次世代の役に立つこと。それが僕の目標」と言い切る古久保さん。その表情は生き生きと輝いていた。

【夫彰子】